

平成30年度 第2回北海道立釧路芸術館運営協議会議事録

日 時 平成31年2月6日(火) 午後2時00分～午後4時00分
場 所 北海道立釧路芸術館 アートホール

○出席委員 11名

○館出席者 5名

○釧路芸術館共同事業体運営委員会
運営委員 1名

- 【議 事】(1) 平成30年度事業報告
- ア 展覧会事業
 - イ 芸術・教育普及事業
 - ウ 施設の利用状況
 - エ 作品収集状況
- (2) 平成31年度事業計画
- ア 展覧会概要及びスケジュール
- (3) その他

1. 開 会

館長より、平成30年度第2回北海道立釧路芸術館運営協議会の開催する旨の挨拶。

2. 挨 拶

運営委員より、9月の胆振東部地震での大規模停電による「倉本聰の仕事と点描画展」の開催延期のことや、平成30年度事業報告と平成31年度事業計画について、忌憚のないご意見を賜りたい旨の挨拶がなされた。

3. 協議会成立について

館長より、平成30年度第2回北海道立釧路芸術館運営協議会の開催にあたり、委員数14名中11名が出席となり、運営協議会規則第7条2項により成立する旨を宣言し、議事に入った。

4. 議 事

- (1) 平成30年度 事業報告

館長より、展覧会事業について説明。「倉本聰の仕事と点描画展」では前売券の販売が振るわず、大規模停電の影響も加わり、結果的に総観覧者数が目標を大幅に下回ったこと、今年度から外国人観覧者の計数を始め、平均して3%程度の観覧があることなどを報告。また、アンケート結果から依然として駐車場の確保に対する要望が多いことを説明。

次に、教育・普及及び自主事業の実施状況について説明。阿部海太郎ピアノコンサートや「世界でいちばんうつくしい村」上映会&アフタートーク、出前講座等の報告がなされた。

委員 外国人観光客にはどのようにして芸術館とその展覧会を周知していますか。

館長 すぐそばの耐震岸壁に大型客船が寄港したときは、情報コーナーに当館のチラシを置かせてもらい、展示替え期間以外で寄港とぶつかった日は月曜日でも開館にするなど、より外国人に来てもらえるような取り組みをしています。一方で、北海道開発局が実施しているレンタカー利用の外国人旅行客を対象にした「ドライブ観光パス事業」での観覧はゼロでした。

会長 外国人観覧者の計数はどのように行っていますか。

館長 受付で話す言葉で把握しています。

会長 「倉本聰の仕事と点描画展」は出だしからつまずき、観覧者数が振るいませんでしたが、同様の展覧会が開かれた札幌と比較してどうだったのでしょうか。

学芸主幹 札幌のプラニスホールで開催された展覧会は倉本聰さんの点描画のみの展示でしたが、当館では点描画プラス彼のこれまでの歩みを紹介するという形で、「北の国から」のセットを一つの目玉にしながら、小道具や撮影台本なども展示しておりました。

ちなみに、プラニスホールの方の観覧者数は3千人くらいと聞いております。

会長 観覧者数で言うと、どちらも厳しかったということですね。

委員 観覧者目標の設定の仕方はどのようにしていますか。

館長 指定管理者の応募の段階で目標値が設定されています。平成30年度は2万4900人、それから4年間の契約なのですが、年々上がっていく形で目標値を提示されています。釧路管内の人口はピーク時で37、8万人、現在は28万人くらいでしょうか。かなり減少が進んでいる中で、この目標値をクリアするといえますか、近づけるべく対処していかなければならないと考えています。

札幌圏に比べて子供の数が格段に減っているというのがありますし、もう一つは詳細を把握していないのですが、あまり入りすぎるとその影響で翌々年度の目標値のハードルが上がるというのも聞いておりました。先程も申しましたが、今後の契約期間の中で目標値は年を経るごとに上がっていきますので、厳しい状況であります。

委員 元々トータル2万4900という数値が決まっていて、それを割り振っているということですか。

館長 極端なことを言えば、逆から追わざるを得ないと言いますか、昨年度が2万5000と少して、ぎりぎり目標を上回ったのです。展覧会の内容にもよりますが、久しぶりに目標をクリアした状況であります。

委員 収支状況のところ、合計で800万円あまり目標に達さなかったということで、これはどのように補填していますか。

館長 利用料金制になっていますから、その収入も館の運営費の一部になっています。その中で何らかの形でやりくりせざるを得ないかなと。大きいのは昨年9月以降に重油が値上がりしてしまいましたので、収入が上がらない中で、小さな節約を積み上げてなんとかしていかないといけない状況にはなっています。

会長 道立美術館施設で釧路芸術館だけが指定管理者制度を導入しています。直営の時から予算を何割か縮減した形で民間にお願いするという形になります。その時の条件として、過去数年の観覧者数の平均値を基準として、4年間で微増という形で観覧者の年間目標数を設定しています。個々の年度ではその年間目標数を各展覧会に割り振って人数を決めているということです。

どうしても数の話になってしまいますが、人が減っていく中で、今後は人口動態とは逆の形で目標設定をせざるを得ないのではと考えております。

一方で文化施設ですから、ペイするというとは別に文化施設としての重要性は主張していかなければならないわけですが、また一方で道から運営を委託されているという状況ですから、観覧者数があまりにも少ないと今後は、という話に当然なってしまいます。

今年目標数に対する実績がかなり厳しいといえますか半分なので、最終的には4年間でどうするかという話になると思うのですが、このあたり毎度の議論となっていて、手をこまねいているとイトーヨーカ堂のようになりかねませんので、皆様方のお知恵をどんな形でもお聞かせ願えればと思います。

委員 私は別海町に住んでおりますが、町内に公民館が3つありまして、公民館事業で寿大学というのを設置して高齢者の学習や芸術鑑賞の機会を確保しているのですが、バスに乗って毎年色々な所へ行っているみたいです。ちなみに釧路芸術館からチラシは送られていますでしょうか。

館長 送付しております。

委員 積極的に声をかけて頂ければ、今のお年寄りには行動力がありますので、選り好みしないで来てくれるのではないかと思います。

会長 そのバスというのは、町外にも行くことができるのですか。

委員 日帰りコースであれば。だいたい道東一帯ですね、運行範囲は。

会長 ありがとうございます。その他いかがですか。

委員 やはり車だと思いますね。駐車場の問題が解決すれば、きっと入館者は格段に増えると思います。アンケートに書く人は「駐車場が広ければありがたい」などと遠慮がちですが、逆に駐車場が原因で来館をやめた人はアンケートにも答えていないのです。

高校の校外展で保護者の方々が見えられても、駐車場が1時間いくから2時間いくらというのであれば、演劇だけ見て帰る、展示(校外展)だけ見て帰るといのように、なかなか館主催の展覧会には入って頂けないです。どこかと連携して無料でとめられる駐車場があれば大分違うと思います。

館長 非常に手をこまねいているのが実態です。釧路市に関しては、市営

の錦町駐車場が特別展観覧の場合は駐車料金1時間無料、それからアートホールやフリーアートルームのご利用の場合は2割引というようにご協力頂いております。それから毎年ですが、特別展観覧の場合にさらにもう1時間減免してくれないかと文書でお願いしていますが、例年通りの回答の中で長年開館してきたというのが実態であります。

周りも民間の駐車場というのが、月極のものはあるのですが、他がなかなかないのです。逆に芸術館のすぐ横に緑の大きな芝生の公園があって、「なんも使ってないじゃないか」という声も聞くのですが、なんともしがたいという気がしております。

また、隣の釧路市観光国際交流センターの前には観光バス用の駐車場があるのですが、一般の車両はとめられないのが現実としてあります。

釧路市は車社会で、100mさえ歩きたくないというのが実情で、駐車場問題というのはここの建物がある以上、ずっとついてまわることなのかなと思います。なかなか解決できる妙案がないのが実態です。

会長 開館当時からの悩ましい問題で、最初からそういう設計だったということなのです。隣の芝生がまだ整備されていない空き地だった時は、休日だけそこに駐車できていたのですが、整備されてしまってそれも難しくなったと。

ちなみに、釧路市への要請の仕方というのは、減免をお願いしますというだけでは断られますので、一つの展覧会でどれくらいの台数利用がある予定でというふうに試算を提示していますか。

館長 基本的にはこれだけの利用がありますという数字は出しておりません。館としては錦町駐車場を利用して展覧会を観覧した方の人数は把握していますが、市への要請文には記載していません。

会長 釧路市の施設も北海道の施設としての芸術館も同じエリアにあるのですから、お客さんの流れの相乗効果というような青写真を提示して要請すると、また違ってくるのではないのでしょうか。

さて、川瀬敏夫展ですが、目標500人に対して実績が1704人ということで驚いています。地元で中学校の教師をされていた方で、教え子もたくさんいらっしゃいますので、人のつながりですとか関心の持ち方によって、人が流れてくるのではないかと。逆に言えば、関わりのない人の展覧会は見ないという方も少なくないのではと思います。こういう所になにかヒントがあるのではないのでしょうか。

委員 こういう背景の中でこの絵が描かれましたという分かりやすい解説があると、知的な満足感が得られて、次の展覧会もまた来たいというふうになるのではと思います。

学芸主幹 作品については、解説パネルという形で少しでも分かりやすくお伝えするように努めていかねばならないと感じます。今回の所蔵品展では各作品に簡単な解説パネルをつけるのとは少し違ひまして、少し長めの解説を取ってつけるというのをしてみました。だいたいお客様は立って作品を見ながら解説文を読まれますので、私が昔教えられたのが、「200字以上の解説文は書くな。お客さんが読めないから」というもので、それを意識しながらも少し長めの解説をつけて、より深く理解してもらおうということをしました。

 今後は書き方の工夫ですとか、例えば対象を大人と子どもに分けて解説を作るとか、色々試していきたいと考えていますが、直接お客様に解説を行うという機会も継続していきたいと思います。

委員 私は何年か運営委員をさせて頂いていますが、展覧会の度に招待券を下さってとてもありがたいです。倉本聰の仕事と点描画展の時には、私はデイサービスもしておりますので、利用者を連れてきて撮影できるコーナーで写真を撮らせて頂いて、皆さんとても良い思い出になったと言っていました。

 釧路芸術館が抱える問題は二つあって、一つは先程から何度も出ている駐車場の問題と、もう一つは動員の問題ですね。

 質問ですが、私たちが頂いているような招待券というのは、展覧会ごとにどれくらい配布されているのですか。例えば1000枚とか。

館長 1000枚単位で配布しております。

委員 私の妄想だと思って聞いて頂きたいのですが、日本人でも外国人でも、皆さんタダのものが大好きなんです。島崎委員がおっしゃっていましたが、別海にも標茶にも、私の住んでいる釧路町にも高齢者の大学の様なものがありますので、例えばそういった所に100枚なら100枚招待券を配れば、観覧者も大幅に増えて、「うちの施設はこんなにお客さんが来るのだから、錦町駐車場の特別展観覧者1時間無料を2時間にして下さい」というふうに、釧路市に対しても説得力が増すのではと思います。大盤振る舞いするというのは難しいことなのでしょうか。

館長 　　実は私、以前文化施設にしまして、一つはホールというのはキャパシティがあって、当然席数以上のチケットは存在しません。1000席あれば、その中で有料で販売する席と、招待客用に確保する席があります。対照的に、美術館というのはキャパシティがないですから、それなら無料の招待券を野放図に配っていいのかというと、一方で窓口にお金を払って観覧する方もいるわけで、私自身ジレンマを感じております。ある程度制限を設けた有用な招待券の配布方法なら再考の余地はありますが、野放図に招待券を配るとまた無料で見られるという考えが根付いて、施設の運営そのものが成り立たなくなります。

委員 　　決算書を見せて頂きましたが、道にしても市にしても、何年後か十年後か、採算の取れない施設はどうするかという話になってきますので、動員の面である程度招待券を配るのはいいのですが、やはりお金を払ってチケットを買ってくれる方々に一つ一つのイベントをどうPRしていくかというのが大事だと思います。

　　一番大事なのは動員数を増やすということと、バランスがとれていなければ不採算施設として存続が危ぶまれるというのを前提に、市民としてどうやってこの施設を守っていくかということです。

　　あと去年の話ですが、旅行者の方が「美術館に行きたいのですが、場所がわかりません」と周辺をぐるぐるまわっていて、案内したことがあるのですが、もう少しここが美術館ですというものがあればよいなと思いました。

会長 　　いろいろな普及の仕方があると思いますが、今ある資源をどこに投下して、どういう実験をして、どういうデータを取って、次に生かすかっていうのが必要になってくると思います。ルーチンでやっても同じ結果になってしまいますから。

　　それから、建物の分かりにくさですが、これは開館当時からの問題で、北におしりを向けているような状態ですね。当初は国際交流センターの方からお客さんが流れてきて、入り口があるという設計で建てたのですが、実際の人間の動きは違っていたというのがありまして、建物自体と言いますか、土地の使い方自体の苦しきがあるかと思えます。逆に言えば弱点がわかっていますので、そこをどうカバーしていくかというのが重要になってきます。ぜひ頑張って頂きたいと思えます。

(2) 平成31年度 事業計画

　　学芸主幹より、平成30年度の受贈候補作品について、平成31年度展覧会事業「江戸の遊び絵づくし」から「所蔵品展」までの5展覧会事業計画について説明。

引き続き、教育普及・自主事業についても説明。

委員

今お話し頂いた平成31年度は楽しい企画が多い中で、先程から話に上がっています入館者に関して、先程館長から管内の人口減少のお話があったのですが、やはり2回来てもらうことが重要だと思います。そちらの方が数を稼ぐ点では必要になってくるかなと。やはりこういうような施設というのは、入館料・施設利用料と施設管理費がトントンになるというのはないので、どうしても赤字が出る前提の建物です。収益を考えていくのも多少必要かもしれないですが、集客を考えたときに人数を稼ぐにはやはり2回来てもらおうと。

子ども達とのつながりを考えた時に、総合学習の人数が相当減っているというお話がありましたが、なかなかこういう所に出向いていけないという傾向になっているのかなという気がします。高校生もそうですけれど、これだけ演劇や合唱をここでしている割には観覧が少ないです。私も倉本聰展の時にかなり声かけはしたのですが、なかなか興味を示してくれない。それと、大学生もレポート課題にしないと足を運ばないんです、我々文化団体の上演に関しても。半強制とってはなんです、芸術館に行く癖をつけるのが一つ。それから先程も出ていました地域の人々とのつながりを展覧会の中に盛り込んでいくというのが重要になってくると思います。江戸の遊び絵づくし展では釧路版画協会とのコラボがあるようで楽しみです。今年度で言うと、我が家の名品展は非常に観覧者数が伸びていますが、やはり展覧会が地域とどういったつながりがあるかということに興味を示して足を運ばれるのではないかと思います。

それから、先程の部分でいくと、招待券ではなく「2回目は半額になるよ」とリピーター割引くらいにした方が良さそうな気がします。「まだ見足りないところがあったわ」とか「開幕の時はああいう企画だったけれど、中ほどではこういうコラボがあるからまた見に行こう」とか、そういった一つの展覧会に2回足を運ぶような工夫を是非して頂けると、観覧者数も増えていくのではないかと思います。

館長

リピーターの件につきましては、何度も足を運んで頂きたいと考えております。先程ご指摘のありました通り、小学校や中学校、高等学校の総合学習での利用が相当減りました。そんな状況の中で、今年はいつもとより3か月ほど早く、釧路・根室管内の小学校や中学校、高等学校に、来年度の展覧会や出前講座の案内とボランティアの会の招待についての説明を文書にして送付し、積極的にアプロ

ちさせて頂いております。また、年度明けすぐに釧路・根室管内の小中学校校長会・教頭会で、今年度はこんな事業を行いますというご案内を例年通りさせて頂く予定です。それから、キャンパスパートナー制度につきましても、大学への周知が十分ではなかったと感じております。

地域とのつながりにつきましては、当館の性格上、釧路・根室管内全体についてもある程度ケアしなければならないですが、人口ウェイトの関係で釧路市に重点を置いて、地域とどういう形で密着した中で事業を進めて行くかということを考えていきたいと思っております。

それから、リピーター料金は設けておりますが、周知が十分にされていないと感じていまして、さらにチケットの半券についての説明が小さくて読みづらいこともあり、今後どのような方法でPRしていくかというのを考えていかねばなりません。しかしながら、展覧会料金については道教委の承認が必要になってきますので、なかなか半額とはなり得ないのではと思いますが、一つの課題として受け止めていきたいと思っております。

委員

出前講座のお話が出ましたけれど、私は厚岸町から参っているものですから、厚岸町に関してご意見させて頂きまして、なかなか芸術館に足を運ぶ機会は多くはないですが、我が町のお宝展の時は相当な数の町民がこちらに見に来ていたことを存じております。でもせっかく11月1日に厚岸小学校で出前講座が行われているのに、11名しか参加しなかったのですね。いくら少子化でもこの人数は少ないと感じたものですので、校長会・教頭会含めて色々な角度からアピールして頂きたいと思っております。

委員

先程、校長会・教頭会という言葉が出ていましたが、校長をさせて頂いている立場からお話しさせて頂きまして、やはり学習の目標に沿わないものはどんどん削り落としていくというふうになっております。指導要領が十年に一度替わりまして、2020年が小学校は全面実施になっているのですが、それに伴って新たな教科が加わり、総合学習も探求的な学習というふうに求められておまして、そこに目的・目標がない活動はそぎ落としていくんです。ですから、ただの見学ですとか良いから見せる聞かせるということは本校では考えておりません。ですから、厚岸小学校の総合学習の11名というのも1学年が11名なわけではないなと思ったんですけども、総合学習もいくつかのグループに分かれて参加するので、活動目標に合致するものでなければ、なかなか学年一斉に学校一斉に見せて頂

く聞かせて頂くとはならないわけなのです。ですから、展覧会であっても総合学習であっても、図画工作であるとか社会科であるとかそういった教科の目的に合うものということで条件をクリアできなければ参加は難しいかなと思います。今後とも利用したいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

学芸主幹

補足させていただきますと、11月1日の厚岸小学校の11名は、図工の先生に講義をして欲しいということだったんです。私たちも出前講座は生徒さん向けなので、なかなか難しいのではないかなと思いついて先方と話し合ったのですが、自分たちが生徒さんを指導する参考にしたいということでしたので、先生を相手に小学校3年生を念頭に置いた講座をさせて頂いたわけでありました。

総合学習について委員の方からご意見がありましたが、活動の目的・目標に合うものというお話は、道教委自体が今は学力の問題を大きな課題としていますので、私たちも実感しております。

美的鑑賞の楽しさも大事なのですが、それだけではおそらく進まないだろうなということも感じておまして、そこで例えば来年度のタグチアートコレクションという世界の美術を紹介するものでしたら、現代の美術であるがゆえにこそ今の様々な国や地域や民族の人たちがどんなことを感じて、どういうことを表現しているのかという視点から見えて頂けるという点では、もしかしたら社会科とつながったりすることもできるのではないかと思います。指導要領では他教科においてどのようなことが求められているかということに私たちは不得手なところがありますので、出前講座でこういったテーマが面白いのではとお気づき下さったらどんどんご意見頂いて、私たちも検討しながら勉強しながら、一番いい形で行っていきなと考えています。今後ともご指導ご協力頂ければ、大変ありがたいです。

会長

なかなか難しい問題ではありますが、地域の社会教育施設や文化施設をどういうふうにご利用していくかというのは学校としての課題でありましょうし、あるいはそこにどうフィットさせていくかというのは、こちら側の課題だと思います。

会長

他にご意見ございませんでしょうか。では私から受贈候補作品について質問させていただきます。近年は作品を購入する予算がなかなかつきませんので、どうじても受贈という形になってしまいますが、

収蔵庫のスペースも限られる中で、一方で道の施設ですから「道民のお宝を保存していくという役割もある。全体の選定理由と状況というのをもう少し詳しくお聞かせ願いたいです。

学芸主幹

作品の受贈に関しましては、一般論になりますけれども、色々な形で作家ご本人やご遺族の方々と関係を築きながら、その中でタイミングとご縁があって、選ばせて頂いているのが正直なところでございます。美術館の方から「あの作品を下さい」「この作品を下さい」というわけにはいきませんので。その中でどんなふうに考えていくかというのがありまして、今回の高坂和子さんは、作品の評価としては、1980年代以降道内で開かれている展覧会に繰り返し出品されていて、新聞にも度々掲載され、ある程度の評価が確立しているというのがございます。作品選定の時に1人の学芸員が「これは素晴らしいから買う（もらう）」というのはあり得ないことですので、客観的な評価、いわゆる他の所でどのような評価を受けているかということを考えながら評価しています。

その中で今回、高坂さんの初期から最期の発表作までほぼ重要な時期の作品をまとめて寄贈という形で希望されているということでございました。裏事情としましては、ご本人が亡くなってからしばらくは娘さんたちもお母様への思いが強くてなかなか手放したくなかったというのがあったのですけれども、ご自身が年齢を重ねていく中で、このままだと自分たちも年を取っていくし、絵も全然生かされていないということで、芸術館に相談がありました。高坂さんの作品なら、ある程度の点数を受贈しても、多くの方に意義のあることだと思い、選ばせて頂きました。

岡沼淳一さんにつきましては、活動地域はこの辺りではないのですが、先程も申しました芸術館の収集基準の一つである「自然と芸術」というテーマにふさわしい作品でもあり、また彫刻の分野で言いますと、当館は米坂ヒデノリさんや中江紀洋さんという釧路ゆかりの作家の作品が結構な点数収蔵していますが、他の作家さんについてはまだ弱い所がありますので、せっかくの彫刻の実績のある作家の方なので、手に入るチャンスであろうということでこの2点を選ばせて頂きました。ちなみに「遡行」という作品は寸法が135cm×300cm×150cmという大きなものですが、5つのパーツに分割できますので、収蔵庫スペースの問題はクリアできます。

小野寺玄さんにつきましては、ご本人が亡くなった後で、作家が最期まで手放さなかった作品の中からご遺族が整理して、北海道の美術館に寄贈したいというお話しでしたので、釧路ゆかりというこ

とで、3点ほど選ばせて頂きました。これまで当館では工芸作品のコレクションがありませんでしたので、小野寺さんの作品を入れることで工芸の分野を形作ることができたのではと感じております。

委員

収集についてのお話がありましたが、私から補足させて頂くと、小野寺玄さんは釧路出身で陶芸家としては全国レベルで活動されている方なのです。近代美術館に少し古い時代の作品が収蔵されていただけだったのですが、亡くなられて、ご遺族が作品を是非生まれ故郷である北海道に遺したいというのがありまして、近代美術館の方でも何点か頂くのですが、釧路の方にもあった方が良いということで、ちょうど工芸のコレクションがなかったというのもありまして、札幌と同じ流れで頂くことになりました。

購入がなかなかできない時代ですが、道立の美術館施設というのは芸術館も含めて基金というのがありまして、その基金の範囲で購入して各館に配分するという形できたのですが、現状は買った後にその分のお金の補填がないので、使える部分をほぼ使い切った状況です。ほぼ10年前に購入が止められて4年くらい前に復活はしたのですが、額が少なく、緊急性のある場合にしか使えない状態です。ですからどうしても寄贈に頼らざるを得ない中で、それをして頂けるのは大変ありがたいお話しであると思っています。

今日本の美術館は入館者が少ない、お金が入らないという中で予算が削られていくという大変厳しい状況で運営しているところが多いのですが、お金がないのでやはり大きい展覧会が出来ないと。特に地方ではなかなか大きい展覧会は、ということでコレクションをなるべく充実させてそれを活用させていくということも一つの方策としてありますので、寄贈をして頂けるということは館にとっても非常にプラスになるのではと思います。

委員

以前にボランティアさんが前売券を持っていて、買ってほしいと頼まれたことがあったのですが、今もそういった形はとられていますか。

館長

ボランティアさんに前売券を配って、売ってくださいという形はしておりませんが、この展覧会は前売券を販売したいということで道の承認を得たものにつきましては、売店で販売しております。

会長

私が気になっているのは、色々なところで芸術館の事業を「知らなかった」とか「情報が届いていなかった」などという声を聞きま

す。今後の情報発信の仕方です。予定があればお聞かせ下さい。

館長 現在当館のホームページですが、トップページも含めて見やすいように変えているところです。また、若年層は新聞離れが進んでいますので、Facebookでの情報発信も充実させていく予定です。それから、カード決済もただいま準備しております。お客様が利用しやすい環境作りをしていきたいと思っております。

会長 他にご意見等ございますでしょうか。では、出尽くしたようですので、議題は全て終了したということで、進行を事務局にお返ししたいと思います。

運営委員より閉会の挨拶があり、北海道立釧路芸術館平成30年度第2回運営協議会は終了となった。